

すべての子どもに
幸せなスタートを

家庭訪問型子育て支援
ボランティア
ホームスタート



ホームスタートとは

2



- 地域の子育て経験者が
- 週に1回2時間程度
乳幼児のいる家庭※
を定期的に訪問し
- 傾聴と協働する
ボランティア活動



今後は妊娠期～学齢期へ
切れ目ない支援を

「傾聴」と「協働」で親自身のエンパワメント



傾聴



傍にいて何気ない会話をする

- ・ 話したいことを聞く（受容）
- ・ グチや大変さを語り合う（共感）
- ・ 子どもの成長や頑張りを承認
- ・ 地域や子育ての情報提供をする

協働



一緒に家事育児をする

- ・ 一緒に食事やお菓子を作る
- ・ 一緒に健診や子育てひろばに行く
- ・ 一緒に買い物に行く
- ・ 室内や公園で一緒に子どもと遊ぶ
- ・ 他の支援の利用をサポート



子どもの最善の利益

英国での「はじまり」



4

住民ボランティアでしかできない 訪問型子育て支援の始まり

- マーガレット・ハリソン女史が、1973年に
レスター(Leicester)で始める

「誰もが、ゆっくりと一緒に話ができる人、自分（親）自身を気にかけて
状況を理解してくれる人を求めていた
お互いに学べる関係や私が権威側にいないうることも
大切だと気づきました」

「素人性」重視型
「当事者性」重視型（ピアサポートー）



世界22ヶ国への「ひろがり」



HOME-START WORLDWIDE



多様な文化を持つ国々で
同じ理念と支援原則
移民・難民支援も

イギリス、アイルランド、フランス、オランダ、ベルギー、デンマーク、ノルウェー
ギリシャ、マルタ、チェコ、ハンガリー、ポーランド、ルーマニア、カナダ
ウガンダ、南アフリカ、ザンビア、タンザニア、ブルンジ、スリランカ、オーストラリア、日本

国内32都道府県119地域へ



*2024年8月現在 上記市区町の非営利民間団体が実施しています。

訪問32都道府県 119市区町
3,676人のホームビジター
16,461家庭
27,313人の子どもたちへのべ130,295回訪問

2009年～24年3月



子育て支援拠点等に出かけづらい親子



7

- 地元に知人友人がいない 見知らぬ土地で不安
- 拠点が遠く車がない 公共交通機関は利用しづらい
- 親or子どもが病弱 障害がある
- 仕事や介護で時間の余裕がない
- 人が集う場所は苦手で気疲れする
- 子どもが周りに迷惑をかけることが心配
- 双子・多子で外出困難 心身共に疲労困憊
- 日本語が母国語ではないので言葉の不安



既存の子育て支援の隙間 → 孤立した子育て

ホームスタートの外国人支援



8

2019年 ホームスタート実施24地域のアンケート収集
見えてきた多様な国々にルーツを持つ家庭への訪問支援

<訪問家庭の出身国>

中国、ベトナム、韓国、フィリピン、バングラデッシュ
ネパール、ガーナ、スリランカ、タイ、台湾、ペルー、
インドネシア、イスラエル、イラン、ウガンダ、ウクライナ
ブラジル、ミャンマー、モロッコ、リトアニア、ルーマニア

今後も在留外国人の数が急増する中で、外国人や外国にルーツ
のある子育て家庭への支援の機会がますます増えることが想定

外国人親子のニーズ例



9

- 離乳食を作りたい
- 日本食の作り方を知りたい
- 買い物の付き添い（日本語がわからない）
- 子育て支援サービスの登録、健診の付き添い
- 日本の幼稚園のことを知りたい
- 話し相手が欲しい
- 日本の常識を知りたい

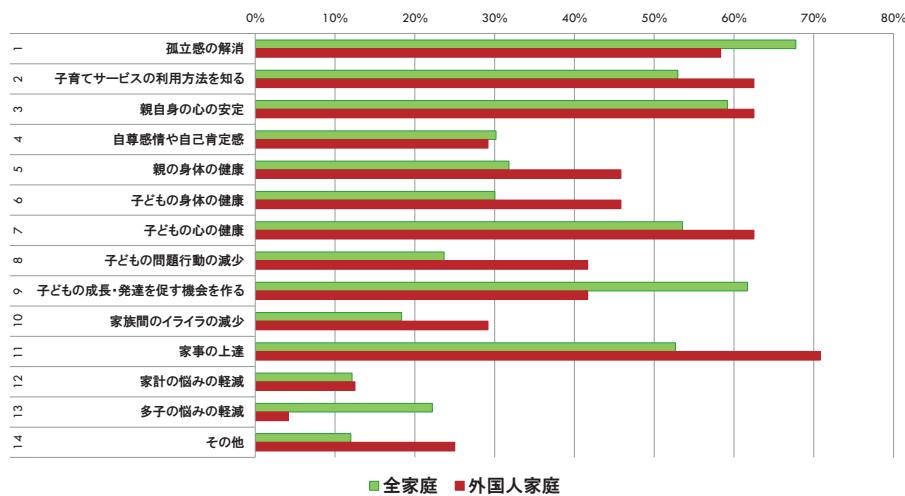


(都内:全家庭と外国人家庭の比較)



10

ニーズを感じている家庭の割合に関する比較



(都内:全家庭と外国人家庭の比較)



11



ホームスタート体験談



12

「産後は孤立状態。日常のごく普通のことをする
にも手助けが必要で、誰かそばにいてほしかった・・
一緒に買い物に行って味噌汁を作ったり、
彼女がいてくれるだけで、いい時間が過ごせて、
新しいことにチャレンジする楽しさも知りました。
日本のサービスを利用することも、最初は怖くて使う
気になれずにいたんですが、ちゃんと情報を得れば
大丈夫なんだと気づくことができました。」

「母親であるということは、世界中の女性をつなぐ感覚
なんですね。アキコさんは、私にとって、日本と外国人
コミュニティの懸け橋のような存在でした。」



ホームスタート体験談



13

「当時は、赤ちゃんの世話が本当に難しかったです。赤ちゃんは大声で泣き叫び、そのたびに頭が痛くなりました。初めてのことばかりで、どうすればいいかわかりません。どんな地域のサポートが得られるか、日本語で調べるのも時間がかかりました。手助けを頼める人もいませんでした。夫の育休が終わると、大人は自分だけで、毎日、だれも話す人がいなくて、だんだん子育てが大変に。そんなころに、ビジターをお願いしました」
子育ては大変と思っていたけれど、自分でできるようになってきました。元はネガティブな気持ちだったと思います。それが、ポジティブに変わってきました。
今度は、私から恩返ししたいと思っています。



現在はホームビジターとして活動中です



子育ての支え合いで多文化共生



14

- 言葉や文化がわからないことで生じる、不安や孤立感がある
- 子育てに関する不安は、国籍に関わらず共通
- 個別に寄り添い困りごとを一緒に整理する人が必要
- 支援に際して言葉の壁は越えられる（中学生程度の英語や「やさしい日本語」、または翻訳アプリ）
- 自ら申し込むことは困難なので、保健センターや外国人支援を行っている団体に、HSを紹介してもらうことが望ましい

支援する側/される側ではない支え合いの多文化共生
誰もが安心して子どもを産み育てることができる社会に



(お問い合わせ)



15



Home-Start Japan

特定非営利活動法人 ホームスタート・ジャパン
〒169-0072 東京都新宿区大久保3-10-1-B棟2F
TEL : 03-5287-5771
メール : info@homestartjapan.org

導入支援や
交付金活用例紹介
を行っています

3月18日(火)
14時～16時
オンラインサロン

活動紹介動画



詳しくはコチラの
ウェブサイトから！

